

武蔵村山市地域公共交通会議の基本事項及びこれまでの経過について

1 地域公共交通会議とは

住民の移動手段を確保することや地域の実情やニーズに応じた公共交通が求められている状況に対応するため、道路運送法施行規則第九条の二で定める会議として、地域公共交通会議が制度化されています。

同会議は、市町村が主宰し、地域住民、利用者、地方公共団体、地元のバス事業者、運転者の団体等で構成され、公共交通の形態及び運行ルート、運賃などを関係者が一堂に会して議論し、合理形成を図っていくことを目的としています。

また、同会議を立ち上げることによるメリットとして、協議に伴って路線の新設・改廃等が認められた案件について、事業許可申請や廃止届出の処理期間が短縮されることが挙げられます。

武蔵村山市地域公共交通会議では、市内循環バス（愛称「MMシャトル」。以下「MMシャトル」という。）や乗合タクシー（愛称「むらタク」。以下「むらタク」という。）の運行方法やルートの設定、運賃に関する事項等の協議を行います。

2 MMシャトルについて

(1) 概要

軌道交通機関がない本市においては、路線バスが主な公共交通機関であり、その路線バスを補完する目的で昭和55年からMMシャトルを運行しています。市内の環境変化や市民要望等に対応しながら、数回にわたり運行体制の見直しを行っており、直近では平成25年4月1日にルート再編及び運賃改定を実施しました。

現在、11台（うち予備車両1台）の小型バスを用いて次に示すルートを運行しています。

(2) 現状のルート

通勤時ルート (朝・夕)	○上北台ルート ○玉川上水ルート ○武蔵砂川ルート	通勤及び通学者を考慮し、駅（上北台、玉川上水駅等）への速達性を高めたルート
日中時ルート	○上北台ルート ○玉川上水ルート ○西ルート	市内の各施設や通院、買い物等の利用者に考慮し、市内の各拠点を結ぶルート

(3) 1乗車当たりの運賃

	現金	IC	備考
大人	180円	178円	中学生以上
大人（障害あり）	90円	89円	障害者手帳等の提示
小人	90円	89円	小学生
小人（障害あり）	50円	45円	障害者手帳等の提示
未就学児	無料		小学校入学前のお子様 (人数制限なし)
シルバーパス所持者			シルバーパスの提示

3 むらタクについて

(1) 概要

平成25年4月1日に実施したMMシャトルのルート再編に伴い、MMシャトルの日中の運行を廃止した市南西地域（残堀の一部地域、伊奈平全域及び大字三ツ木（横田基地内）の全域）の居住者を対象に、MMシャトルの代替交通手段として、予約に応じて運行する乗合タクシーの実証実験運行を開始しました。その後、平成28年4月1日から本格運行へと移行しています。

利用希望者は事前に登録を行った後、運行事業者に予約をすることで、自宅から乗降場所に指定されている市内公共公益施設まで（又は市内公共公益施設から自宅まで）乗車することができます。なお、大型ワンボックスカー1台による乗合運行を行っています。

(2) むらタクを導入した経過

市南西地域においては、以前、日中時にもMMシャトルを運行していましたが、利用者数の低迷が課題でした。また、路線バスとの競合やバスの運行可能な道路の制限等の理由から、新たなルート設定も困難な状況であったことから、MMシャトルの廃止に踏み切りました。

当該地域においては、路線バスの利用により昭島駅方面への移動は確保されていたものの、市内の主要な公共公益施設への移動手段がなくなることから、必要に応じて運行する（デマンド型）乗合タクシーを都内で初めて導入しました。

(3) むらタクの乗降場所（市内の主要公共公益施設）

① 市役所	② 市民総合センター
③ 福祉会館	④ 武蔵村山病院
⑤ 村山医療センター	⑥ 交通プラザ（イオンモールバス乗車場所）
⑦ 村山温泉かたくりの湯	⑧ 総合体育館
⑨ 武蔵村山郵便局	⑩ 三ツ木地区学習等供用施設
⑪ 残堀・伊奈平地区学習等供用施設	⑫ 第二老人福祉館
⑬ 緑が丘ふれあいセンター	

※ むらタクでの施設間の移動は不可

(4) 1乗車当たりの利用者利用料

	利用料金	備考
大人	300円	障害者手帳等所持者、要介護（要支援）認定者といった一定の要件を満たす方は150円
小人（小学生）	150円	
介助者		
シルバーパス所持者		
未就学児	無料	

※ 障害者手帳所持者などに対しては、本人の利用登録証のほか介助者カードを交付しており、これらの方はこのカードを提示することで、介助者を1名のみ同乗させることが可能

※ 上記以外の方は、傷病等の理由により介助が必要な場合のみ、介助者を1名のみ同乗させることが可能

※ 利用登録者と同時かつ同一場所で乗降する同乗者の利用が可能

4 令和2年度の検討経緯について

(1) 実態調査の実施

令和2年度は、MMシャトルやむらタクの課題を把握し、運行計画の見直し素案を検討することを目的に、運行に関わる各種実態調査を行いました。

	市民アンケート調査	MMシャトル利用者アンケート調査	MMシャトルOD調査	MMシャトル所要時間調査	むらタク利用者アンケート調査	むらタクの利用状況の整理
調査実施日・期間	令和2年10月9日(金)発送	平日:令和2年10月13日(火) 休日:令和2年10月11日(日)			令和2年10月5日(月)から1か月間	平成31年4月から令和2年12月までの利用実績
調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した15歳～85歳の市民を対象に市内4地域別に各1,250名、計5,000名	MMシャトルの全ルート全便の利用者のうち小学生以上	MMシャトルの全ルート・全便の利用者	MMシャトルの全ルート・全便	調査期間中、むらタクを利用した全ての利用者	期間内の利用者
配布・回収結果	配布数:5,000票 回収数:1,934票 回収率:38.7%	配布数:927票 回収数:362票 回収率:39.1% ※全ルート ※ルート不明含む	—	—	配布数:100票 回収数:62票 回収率:62.0%	—
調査内容	個人属性等、外出状況、MMシャトル利用状況、MMシャトル満足度、むらタクについて等	個人属性等、利用状況、満足度、改善内容、MMシャトルについての意識、むらタクについて等	個人属性等、利用状況	調査実施日のルート別・便別・バス停別・通過時刻	個人属性等、利用状況、満足度、改善内容、等	月別利用者数の推移、乗降場所別利用者数、利用率

(2) 運行上の課題整理

実態調査の結果を踏まえ、MMシャトルとむらタクの運行上の主な課題を以下のようにまとめました。

MMシャトルの主な課題

- ・武蔵砂川ルート及び西ルートの利用者が少ない
- ・武蔵砂川ルートは、渋滞による遅延で定時性が確保できない
- ・武蔵砂川ルート及び西ルートは上北台ルート及び玉川上水ルートと比較すると利用者数が非常に低い

むらタクの主な課題

- ・認知度が低いことや、登録したものの実際に利用する人の割合が低いことが現状であり、市民への周知や利用喚起が必要
- ・乗降場所の少なさに対する不満が多いため、乗降場所の増設の検討が必要

(3) 運行計画見直し素案の作成

整理した運行上の課題を踏まえ、運行計画の見直し素案を作成しました。

MMシャトルの見直し内容

○運行ルート：武蔵砂川ルート、西ルートを廃止

むらタクの見直し内容

○運行エリア：現行のエリアに加えて、以下の地域を拡大

MMシャトル西ルート沿線地域のうち、三ツ藤、中原、岸一丁目、残堀一丁目1番地から42番地及び残堀五丁目

○乗降場所：現行の13か所の乗降場所に加え、以下の4か所を新設

いなげや・むさし村山店（村山中央ショッピングセンター商店会）、ダイエー武蔵村山店、ジョイフル本田瑞穂店（瑞穂町）、武蔵砂川駅（立川市）

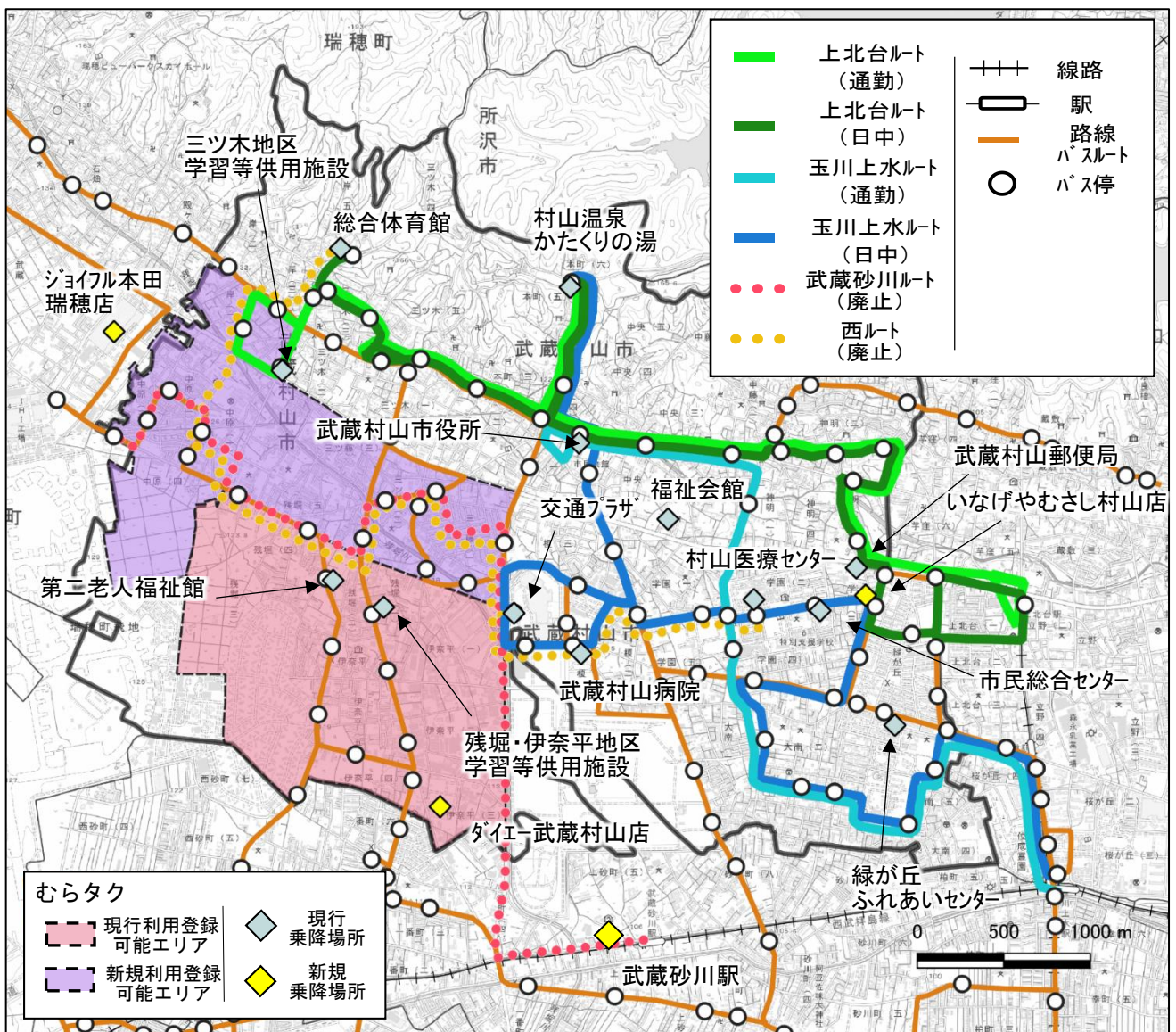


図 市内循環バス（MMシャトル）のルート及び乗合タクシー（むらタク）の運行エリア及び乗降場所

※上図は国土地理院の図を加工して作成